

湘南鎌倉総合病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

神奈川県湘南地域の急性期医療を支えている**湘南鎌倉総合病院(責任基幹施設)**、**湘南藤沢徳洲会病院(研修連携施設A)**、**葉山ハートセンター(研修連携施設B)**の**3つ施設を基盤**に、首都圏にある大学病院との連携にて、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

基盤の3施設は、すでに“湘南麻酔グループ”として垣根なく一体化した麻酔科運営がなされており、施設間の異動に伴う煩わしさを感じることなく、多様な手術麻酔を経験できることが特徴である。

本研修プログラムでは、地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とし、研修終了後は、神奈川県の湘南地区・三浦・横須賀の地域急性期医療の担い手として県内の希望する施設で就業が可能となる。

3. 専門研修プログラムの運営方針

麻酔科研修プログラムにおいては、基礎となる麻酔研修を3年間で完了し、残りの1年で、その周辺領域(サブスペシャリティ)の研修に当てる。

そのサブスペシャリティには、集中治療、ペインクリニック、心臓麻酔があり、集中治療6ヵ月、ペインクリニック3ヵ月、心臓麻酔3ヵ月をそれに当てる。

<麻酔研修>

- 1-2年目は主に湘南鎌倉総合病院または湘南藤沢徳洲会病院にて、脳神経外科、呼吸器外科、帝王切開、小児麻酔を含む一般麻酔の修練を行う。
- 脳神経外科麻酔をさらに多く学びたい希望者は、東京女子医科大学病院, 独)国立病院機構横浜医療センター, 昭和大学病院にて脳神経外科麻酔を中心に3ヶ月の期間, 研修を行う。
- 胸部外科手術麻酔をさらに多く学びたい希望者は、県立がんセンター, 昭和大学病院にて胸部外科手術麻酔を中心に3ヶ月の期間, 研修を行う。

<サブスペシャリティ領域>

- 3年目より、特殊な麻酔（心臓大血管麻酔など）や集中治療管理、ペインクリニックなどの経験ができるように、該当施設での3-6ヵ月の研修を行う。
- 心臓大血管麻酔は、湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、葉山ハートセンターの基盤3施設にて、小児心臓麻酔の希望者は埼玉県立小児医療センター、昭和大学横浜北部病院にて3ヵ月の研鑽を積む。
- 集中治療管理は、湘南鎌倉総合病院に加えて、自治医科大学附属さいたま医療センターでの研修6ヵ月を行う。
- 宇治徳洲会病院, 福岡徳洲会病院においてペインクリニック中心の研修を3ヶ月の期間で行う。このような遠方に長く滞在することが難しい場合には、研修の方法として、週1-2日の出張で半年または1年間という3ヵ月相当の研修とみなす方法も選択肢としてある。

<プログラム研修における注意事項>

- 研修の前半2年間のうち1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、湘南鎌倉総合病院（研修基幹施設）または湘南藤沢徳洲会病院（研修連携施設A）で研修を行う。
- プログラムに所属する全ての専門医研修の医師の研修進行状況を配慮して、経験目標に必要な一般麻酔の症例数、特殊麻酔症例数を達成でき、またプログラムに掲げる麻酔研修以外の集中治療、ペインクリニックの研修が十分に行われるように、

ローテーションを構築する。なお関連研修施設での研修は、希望によりその期間を決定また適時変更する。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	湘南鎌倉総合病院	湘南鎌倉総合病院	自治医科大学さいたま医療センター (集中治療 6ヵ月) 宇治徳洲会病院 (ペイン 3ヵ月)	埼玉県立小児医療センター／湘南鎌倉総合病院
B	湘南藤沢徳洲会病院	葉山ハートセンター／湘南鎌倉総合病院	埼玉県立小児医療センター (小児麻酔 6ヵ月) ／自治医科大学さいたま医療センター (集中治療 6ヵ月)	宇治徳洲会病院 (ペイン 3ヵ月) ／湘南藤沢徳洲会病院

週間予定表

湘南鎌倉総合病院の場合

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：12,624 症例

本研修プログラム全体における総指導医数：18.7 人

	合計症例数
小児 (6歳未満) の麻酔	268 症例
帝王切開術の麻酔	350 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	402 症例
胸部外科手術の麻酔	244 症例
脳神経外科手術の麻酔	235 症例

① 専門研修基幹施設

湘南鎌倉総合病院（以下、湘南鎌倉病院）

研修プログラム統括責任者：小出康弘

専門研修指導医：小出 康弘（麻酔，集中治療）

野見山 延（麻酔）

渡辺 桂（麻酔）

石橋 美智子（麻酔）

相野田 桂子（麻酔）

小澤 寛子（麻酔）

専門医：石川 亜希子（麻酔）

太田 隆嗣（麻酔）

認定病院番号：1436

特徴：

1. 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容

麻酔研修（一般および特殊麻酔）を3年間で終了させることができる

2. 低侵襲カテーテル手術への積極的関与（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）

循環管理の神髄にふれ、経食道心エコーの修得が容易にできる

3. 緊急手術が豊富で術中管理から術後ICU管理まで経験できる。

緊急手術への対応を研修し、その一貫した周術期管理を経験することによって周術期管理の本質を学ぶことができる。

麻酔科管理症例数 4,796 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	231 症例
帝王切開術の麻酔	150 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	86 症例
胸部外科手術の麻酔	107 症例
脳神経外科手術の麻酔	102 症例

② 専門研修連携施設 A

湘南藤沢徳洲会病院

研修実施責任者：岡崎 薫

専門研修指導医：岡崎 薫（麻醉）
菅井 直介（麻醉，ペイン）
茅野 孝明（麻醉）
専門医：西嶋千絵（麻醉）

認定病院番号：879

特徴：

救急医療を含めた幅広い経験を習得できる臨床病院である。一般病院として各分野の症例が万遍なくあり、専門病院のような症例の偏りが少ない。ペインクリニック外来や集中治療室の設備を有する。ロボット手術の経験も積める。

麻醉科管理症例数 2,933 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	82 症例
帝王切開術の麻醉	116 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	102 症例
胸部外科手術の麻醉	37 症例
脳神経外科手術の麻醉	39 症例

(独) 国立病院機構横浜医療センター

研修実施責任者：大野 博和

専門研修指導医：

鈴木 宏昌（麻醉）
大野 博和（麻醉）
小川 賢一（緩和）
山田 宏（麻醉）
古谷 良輔（救命センター）
宮崎 弘志（集中治療）
内藤 梨奈（麻醉）

専門医：若山 洋美（麻醉）

認定病院番号：1300

特徴：

横浜市西部の中核病院で、偏りない症例を経験できる。緩和ケアの研修も可能

麻醉科管理症例数 650症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	4症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	35 症例
脳神経外科手術の麻酔	50 症例

神奈川県立がんセンター

研修実施責任者：藤田 久栄

専門研修指導医：

宮下 徹也（麻酔）
 藤田 久栄（麻酔）
 佐々木 俊郎（麻酔）
 小林 浩子（麻酔）
 松尾 慶子（麻酔）
 近藤 菜穂子（麻酔）
 高野 修身（集中治療）
 太田 周平（緩和）

認定病院番号：242

特徴：

神奈川県のがん診療の拠点病院であり、呼吸器外科の症例が特に多い。緩和ケアの研修も可能。

麻酔科管理症例数 200症例

	本プログラム分
脳神経外科手術の麻酔	50 症例

③ 専門研修連携施設B

葉山ハートセンター

研修実施責任者：小田利通

専門研修指導医：

小田 利通（麻酔）

武部 佐和子 (麻醉)

認定病院番号: 1097

特徴:

心臓血管外科手術と不整脈カテーテル治療を行う専門病院である。スタッフの技量や知識が豊富であり、心臓血管麻酔を修練する上ではとても良い環境である。

麻酔科管理症例数 375 症例

	本プログラム分
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	102 症例

東京女子医科大学病院

研修プログラム統括責任者: 野村 実

専門研修指導医:

野村 実 (麻酔)
尾崎 眞 (麻酔、集中治療)
樋口秀行 (麻酔、ペインクリニック)
尾崎恭子 (麻酔)
黒川 智 (麻酔)
深田智子 (麻酔)
岩出宗代 (麻酔、ペインクリニック)
高木俊一 (麻酔、ペインクリニック)
近藤 泉 (麻酔)
横川すみれ (麻酔)
濱田啓子 (麻酔)
庄司詩保子 (麻酔)
清野雄介 (麻酔、集中治療)
虻川 有香子 (麻酔)
岩田 志保子 (麻酔)
山縣 克之 (麻酔、ペインクリニック)
畔柳 綾 (麻酔、ペインクリニック)
鎌田 ことえ (麻酔)
佐藤 暢夫 (麻酔、集中治療)
糟谷 祐輔 (麻酔)

佐久間 潮里 (麻醉)
 土井 健司 (麻醉)
 中澤 圭介 (麻醉)
 野村 岳志 (集中治療)
 石川 淳哉 (集中治療)
 専門医：伊藤 祥子 (麻醉)
 権田 希望 (麻醉)
 金森 理絵 (麻醉)
 佐藤 麻衣子 (麻醉)
 古井 郁恵 (麻醉)
 永井 美玲 (麻醉)
 丸山 恵梨香 (麻醉)
 福島 里沙 (麻醉)
 大澤 由佳 (麻醉)
 神谷 雅 (麻醉)
 梁木 理史 (麻醉)
 山本 英一郎 (麻醉)
 一丸 達郎 (麻醉)
 加藤 孝子 (麻醉)
 駒山 徳明 (麻醉)
 中島 慶子 (麻醉)
 福井 公哉 (麻醉、集中治療)

認定病院番号：32

特徴：

**豊富な症例数を背景とした包括的な麻醉研修、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も
可**

麻醉科管理症例数 25 症例

	本プログラム分
脳神経外科手術の麻醉	25 症例

自治医科大学さいたま医療センター

研修プログラム統括責任者：石黒芳紀

専門研修指導医：

石黒芳紀 (麻醉)

讚井将満（集中治療）
 谷口由枝（麻酔）
 大塚祐史（麻酔）
 後藤卓子（麻酔）
 岩井健一（麻酔）
 下山哲（麻酔）
 長友香苗（麻酔）

認定病院番号：961

特徴：

循環器領域の患者が多く、開心術は年間500例を越え、大血管の緊急手術も多い。ICUでは成人の内科系、外科系の重症患者、とくに急性呼吸不全、循環不全、腎傷害をはじめとする多臓器不全患者の管理を研修できる。診療面では、毎朝のベッドサイド回診を通してエビデンスを重視したチーム医療を実践している。

麻酔科管理症例数 0 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

昭和大学病院

研修プログラム統括責任者：大嶽 浩司

専門研修指導医：大嶽 浩司（麻酔）

樋口 比登実（緩和）
 信太 賢二（麻酔）
 小谷 透（麻酔）
 三浦 倫一（麻酔）
 尾頭 希代子（麻酔）
 上嶋 浩順（麻酔）
 宮下 亮一（麻酔）
 森 麻衣子（麻酔）

稲村 ルキ (麻醉)
 専門医：小林 玲音 (麻醉)
 奥 和典 (麻醉)
 田中 典子 (麻醉)
 善山 栄俊 (麻醉)
 野中 輝美 (麻醉)
 島崎 梓 (麻醉)
 木村 真也 (麻醉)
 岡田 まゆみ (麻醉)
 小島 三貴子 (麻醉)

認定病院番号：33

特徴：

- ・大学病院の本院のため臨床症例に非常に恵まれており、教育に力を入れている。
- ・手術麻醉のみでなく、集中治療、ペインクリニックの研修を必ず行う。
- ・外科の多くは内視鏡症例であり、特に食道手術や肝臓手術の技量が高いため、他施設にない高度な外科と麻醉科の連携を必要とした症例が経験できる。
- ・ハイブリッド手術室や手術支援ロボットダヴィンチなどの設備があり、TAVI や RALP をはじめとした最先端の症例が経験できる。
- ・末梢神経ブロックの院内認定教育プログラムを持っているなど、技術と知識が無理なく習得できる仕組みを備えている。
- ・鉄道・道路ともに交通の便がよく、周りには商店街が広がっているなど、生活のしやすい立地である。

麻醉科管理症例数 50 症例

	本プログラム分
脳神経外科手術の麻醉	25 症例

昭和大学横浜市北部病院

研修プログラム統括責任者：大江 克憲

専門研修指導医：小坂 誠 (麻醉)
 大江 克憲 (麻醉)
 山田 新 (麻醉)
 岡本 健一郎 (緩和)

西木戸 修 (緩和)
専門医：志村 裕子 (麻酔)
吉田 愛 (麻酔)
坂本 篤紀 (麻酔)
藤井 智子 (麻酔)
釋尾 知春 (麻酔)

認定病院番号：928

特徴：

横浜の北部医療圏に立地する地域中核病院。

外科系・内科系の壁を取り払ったセンター制を採用。

小児外科から産科まで症例が豊富で、各種手術の麻酔管理および集中治療を幅広く経験できる。

心臓血管手術の麻酔も多く、内3分の1が小児心臓麻酔。

さらに、小児心臓カテーテルの麻酔管理も研修できる。

希望者は、ペインクリニック、緩和医療研修も可能。

麻酔科管理症例数 50 症例

	本プログラム分
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	10 症例

福岡徳洲会病院

研修実施責任者：濱田 孝光

専門研修指導医：

大下 修造 (麻酔)
海江田 令次 (ペインクリニック)
上田 聡子 (ペインクリニック)
濱田 孝光 (集中治療)

専門医：向江 美智子 (麻酔)

認定病院番号：689

特徴：

年間10,000件を超える救急車を受け入れており、外傷、くも膜下出血、大動脈解離、急性腹症、帝王切開術などの緊急手術症例を数多く経験できる。

麻酔科管理症例数 300 症例

	本プログラム分
帝王切開術の麻酔	30 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	25 症例

宇治徳洲会病院

研修実施責任者：鬼頭 秀樹

専門研修指導医：

鬼頭 秀樹 (麻酔)

辻川 洋 (麻酔)

村川 和重 (ペインクリニック)

認定病院番号：1258

特徴：

地域医療支援病院, ペインクリニックの研修ができる

麻酔科管理症例数 0 症例

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

東京西徳洲会病院

研修実施責任者：中田 稚子

専門研修指導医：中田 稚子 (麻酔)

認定病院番号：1489

特徴：

地域医療支援病院で症例が多岐にわたり経験できます。

麻酔科管理症例数 1,074 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	6 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔	40 症例
胸部外科手術の麻酔	16 症例
脳神経外科手術の麻酔	2 症例

湘南鎌倉人工関節センター

研修実施責任者：大澤真理子

専門研修指導医：大澤真理子（麻酔）

認定病院番号：1227

特徴：

在院日数が短い人工関節置換術に特化した施設

麻酔科管理症例数 631 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷紀文

専門研修指導医：

蔵谷紀文（麻酔）

濱屋 和泉（麻酔）

佐々木 麻美子（麻酔）

釜田 峰都（麻酔）

認定病院番号：399

特徴：

小児専門病院、小児心臓手術も行っている。

麻酔科管理症例数 50 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	1 症例

国際親善総合病院

研修実施責任者：森本冬樹

専門研修指導医：

森本冬樹（麻酔）

佐藤玲恵（麻酔）

東朋子（麻酔）

岩倉久幸（麻酔）

山田理恵子（麻酔）

認定病院番号：787

特徴：

地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 300 症例

大隈鹿屋病院

研修実施責任者：井上敏

専門研修指導医：井上敏（麻酔）

認定病院番号：1227

特徴：

100例以上の心臓手術および外科の重症症例を中心に、呼吸と循環管理のプロとなるべく徹底的にトレーニングを積んで頂きます。外科は肺～食道～肝胆膵～下部消化管等のほぼ全てのジャンルで手術をしております。心臓外科でも、緊急の大血管症例も豊富で成人開心術症例のトレーニングには最適と自負しています。

また、土地柄、患者さんが高齢であり、麻酔科的合併症も潜在的に認められ、それ故、麻酔科の実力は必然的に身に付き、十分な知識と技術と豊かな人間性を備えた麻酔科専門医が育成されると考えております。

麻酔科管理症例数 250 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

成田富里徳洲会病院

研修実施責任者：長谷川 輝

専門研修指導医：長谷川 輝（麻酔）

認定病院番号：1812

特徴：

当院の麻酔科では、周術期における患者さんの安全を守り、より質の高い周術期管理を行うことを目標としている。安全かつ快適な麻酔が提供出来る様、患者各々の心身の状態に応じた麻酔の計画や手術前後の心身状態を維持管理するための診療を常に行えるような診療を目指している。

麻酔科管理症例数 291 症例

	本プログラム分
脳神経外科手術の麻酔	7 症例

名瀬徳洲会病院

研修実施責任者：高橋 正憲

専門研修指導医：高橋 正憲（麻酔）

認定病院番号：1790

特徴：

奄美大島は、鹿児島本土より約 380km 離れ、鹿児島・沖縄間のほぼ中間にあたる東経 129° 北緯 28° に位置し、有人離島としては、佐渡ヶ島に次ぐ日本で二番目に大きい外洋離島である。

医療環境としては、入院可能な医療施設(20床以上)は9施設あり,その中で名瀬徳洲会病院は急性期115床・回復期85床・慢性期60床で運営されており、そのほか開業医も含む診療所(30施設以上)が連携して地域医療を担っている。

麻酔科管理症例数 457 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2症例
帝王切開術の麻酔	38症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	5 症例

5. 募集定員

5 名

（*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2017年10月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、湘南鎌倉総合病院麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

湘南鎌倉総合病院 麻酔科・集中治療部 小出康弘 主任部長

神奈川県鎌倉市岡本 1370-1

TEL 0467-46-1717

E-mail kenshu@shonankamakura.or.jp

Website www.shonankamakura.or.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して2年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して2年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することがで

きる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての湘南鎌倉総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、国立病院機構横浜医療センターなど幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。